

銅像に込められた思い

銅像というのは、ただ見るのではなく、いろいろな人たち、かかわった人たちの思い、苦勞、そういうものを一緒に思い起こしながら、見るといったところに意味があります。今一度銅像の前にたたずみ、文字までもよく見てみると、また鹿児島島の歴史を違った角度から、楽しむことができるのではないかなと思います。

◇大久保利通銅像

大久保利通の銅像は、鹿児島中央駅から天文館へかけての電車通り沿いの甲突川河畔に建っています。昭和54年に建立されたものです。この大久保利通の像は、大久保利通が明治11年に暗殺され、それから数えて100年にあたるときにこの銅像建設の話ができました。

西郷銅像と比べますと、50年の差があり、西南戦争のわだかまりが大きく影響しています。この大久保利通の銅像を作るとき、死後100年経っていた時でさえも、反対の意見が鹿児島にはあったといい、非常に当時の建設に関わった人たちは頭を悩ませたということです。銅像がいたずらをされないように、台座をできるだけ高くということで、銅像に手が届かないところにあります。除幕式前夜も警備が入って、いろいろ気を遣ったということも聞いています。

今では大久保さんも非常に評価され、西郷・大久保という二人のうちどちらか欠けても明治維新は成しえなかっただろうと言われており、以前ほど、どうこう言われることはありません。

私は、この大久保銅像が非常に格好良くて大好きなんです。しかもその意味が分かるという、なお一層大久保の偉大さというのが感じられてきます。

◇銅像に隠された大久保の姿

西郷さんは、どちらかというと和風。大久保さんは、洋風スタイル。銅像もブロックコートを着ており、ひげを生やしています。この大久保銅像は、中村晋也先生の制作です。銅像を作るにあたっては、大久保の性格や心情、いろいろなことを表現したいということで大変研究されました。



本体の高さ4.3 m

台座からの高さ9.7 m

大久保利通というのは、いろいろ問題があった時に、熟慮に熟慮を重ねる人、そして一旦こうだと決断したら、何が何でもやりぬく。少しでも可能性があれば、やり抜く人が大久保利通なんです。しかも、計画的に物事を進め、時には冷徹と思われるくらいのことを実践していく、そういう強固な意志の持ち主で、西郷さんの温情型とは、また違うんです。

そのような大久保利通の性格をこの銅像でいかに表現するか、ということですが、実は右手は腰にあてています。大久保利通の「冷静沈着」を表したということなんです。そして、左手は、左斜め下に少し前に出しています。これは「決断・実行」を表したと言われています。大久保という人の冷静沈着で決断実行の人、まさにこの大久保の性格をあの銅像に表したということなんです。

◇銅像の裏側にみる大久保家の思い

大久保利通の銅像は実は前からだけではなく、後ろからも見てもらいたいです。これほどとんどの人が気づいてないと思います。台座の右足の後ろの方に大久保利通が暗殺された時に犠牲となった御者と馬ぎしや、その上半身が刻まれているんです。

私は中村先生にどうして御者と馬を作られたのですか、と尋ねたことがあります。

大久保利通のお墓は東京、青山墓地にあります。そのお墓のすぐ隣には、暗殺された時に犠牲になった馬のお墓と御者のお墓まであるんです。立派なお墓です。

中村先生はそれを見られて、大久保家が、犠牲になった御者や馬も大事にしていらつしやる、こういう思いを銅像のどこかに刻みたいと考え、それを銅像の表にすることはできなかつたので、後ろの台座の足のところに作つたということを知りました。



大久保利通の銅像を次回ご覧になるときは、前の方からも後ろからも、どこかにか先生の想いや歴史に刻まれたものが、銅像にも刻まれているということを考えながらご覧いただく、また違った意味で歴史を知る、身近に感じることをするのはないかなと思います。

◇大久保銅像のみているもの 維新ふるさと館??

どちらを向いているかというと、桜島側、甲突川の川下を見えています。実は大久保利通が育つた所を見えています。大久保利通の雅号の「甲東」は甲突川の東側で生まれ育つたところからきています。甲東中学校つてありますが、これはまさに大久保の雅号からとつています。育つた所とは、つまり銅像から270、80メートル先の大久保利通の生い立ちの地のことです。

その隣が維新ふるさと館です。私はいつも、銅像がどちらを向いているか尋ねられると、大久保利通は維新ふるさと館を向いていると言っています。笑われますがね…。

